

序

『人間の一生で、臨終ほど荘厳なものはない。それをよく見ておけ。』これは山本周五郎著『赤ひげ診療譚（新潮文庫）』のなかで、赤ひげこと新出去定（にいできょじょう）が新米医師の保本登に発した言葉です。「生命」とは何でしょうか。これは私たち人類の永遠の課題です。生物学はこの難題について取り組んだ科学といえます。生物学を学び、生物について知識を深めることは、ヒトを含めた生命体の仕組みを知ることになります。それは自然と生命に対する畏敬と尊厳の念を抱き、深い理解をもって豊かな人生を送るために、最も役に立つものと考えます。

生命のもつ共通性（一様性）は、近年より深く追求され、その意味が明らかになってきました。それと並行して現在は生命の多様性にも注目が集まり、急速にその知識が蓄積されています。生命の共通性を知り、自分の知識として記憶されれば、多様性の知識を習得するのも容易となります。

この地球上に生命が誕生してから、約38億年という長い年月が経過し、多様な生物の出現と絶滅を経て、現在数百万種の生物が生存しています。その悠久の生命進化における生物の一員としてのヒトを認識し、それ以外の地球上の生命体の多様な生き様を知るとは、自己の実現と確立にもつながることでしょう。

生命体を作っている物質、遺伝子、個体、環境、生命倫理など多彩な内容を限られた紙面に盛り込むことはなかなか難しくもありました。しかしながら、「わかりやすく」をモットーに丁寧に解説し、かつ最新の生物学的知識を厳選しつつ、オールカラーの図表や写真を随所に掲載することにより、理解しやすい紙面となるよう執筆者一同心がけました。また、多くの方々から貴重な写真の提供も受け、さらに編集を担当頂いた出版社の方々にもご協力いただき、無事出版にこぎ着けたことを深く感謝いたしております。

本書を座右にし、多くの方に活用していただき、生物の知識を深める一助となれば幸いです。

2011年2月

著者を代表して

南雲 保